

第1回県立高等学校改革懇談会 「只見」

- 令和元年 5月21日(火) 14:00 ~ 15:30
- 只見高等学校 会議室



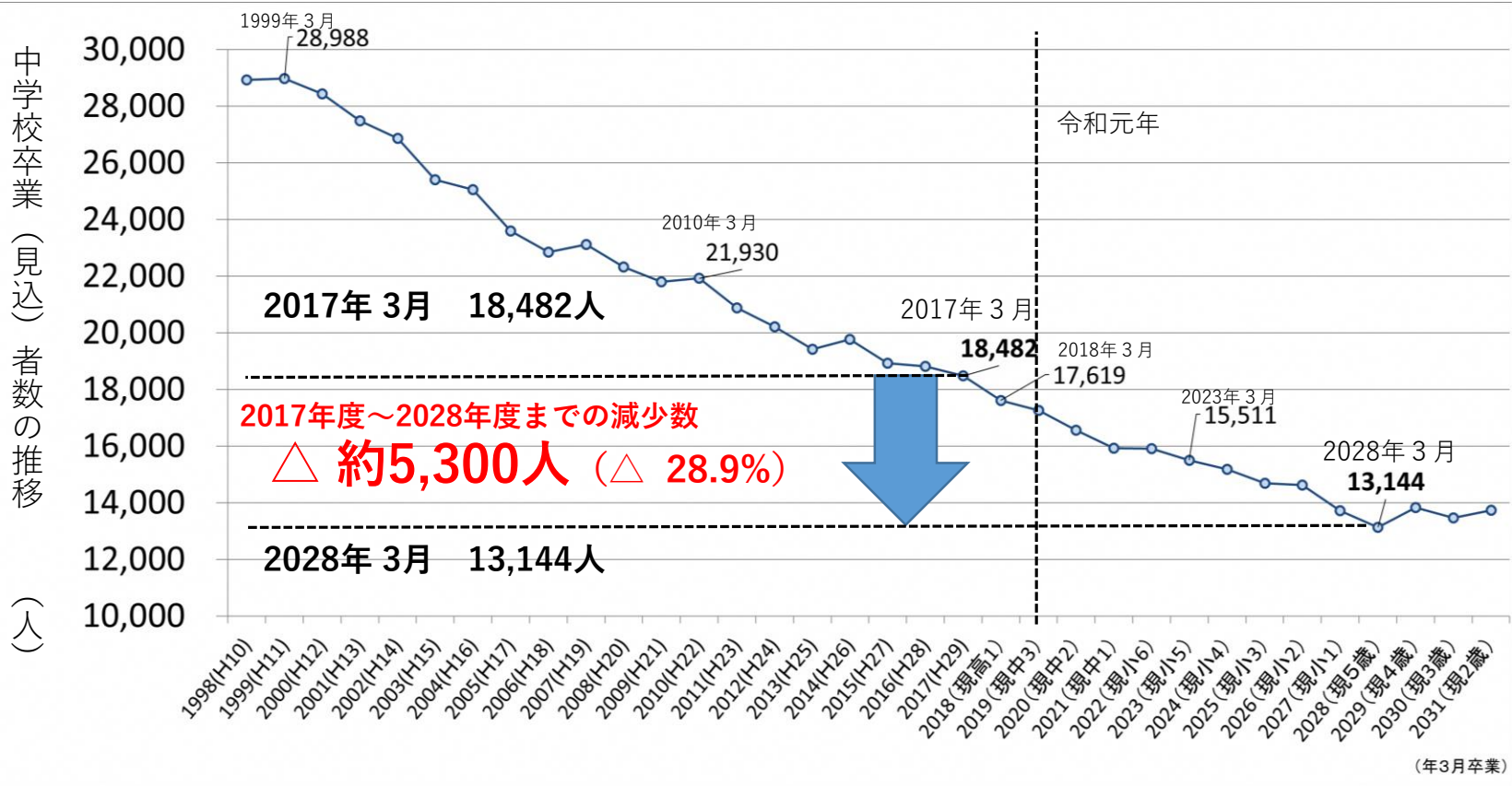
福島県教育委員会

本日の進め方

I	県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯
II	只見高校の現在の状況
III	今後の再編整備について

I 県立高等学校改革前期実施 計画策定の経緯

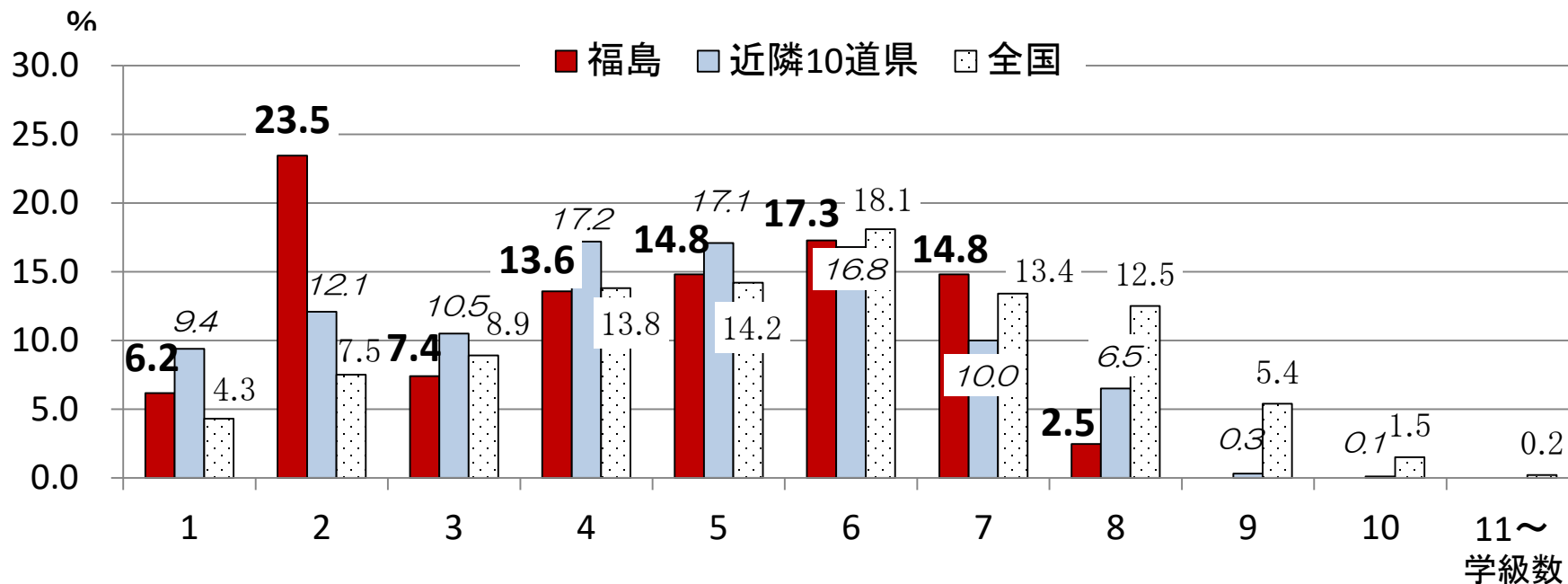
1 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）



出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

2 県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
 分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣
 10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

3 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・少子化のさらなる進行
(中学校卒業予定者数が10年間で約5,300名減少)
- 過疎化・高齢化
(地域コミュニティの維持が課題)
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化
(例：主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入)
- 高等学校の小規模化
(3学級規模以下の高校の増加)
- 生徒の学習ニーズの多様化
(学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化)
- 東日本大震災と原子力災害からの復興・再生
(本県の復興に関わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進)

高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度)答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

4 県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進

基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

基本方針3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

基本方針4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）**
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進

- **望ましい学校規模への再編整備の推進**
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

職業教育推進校

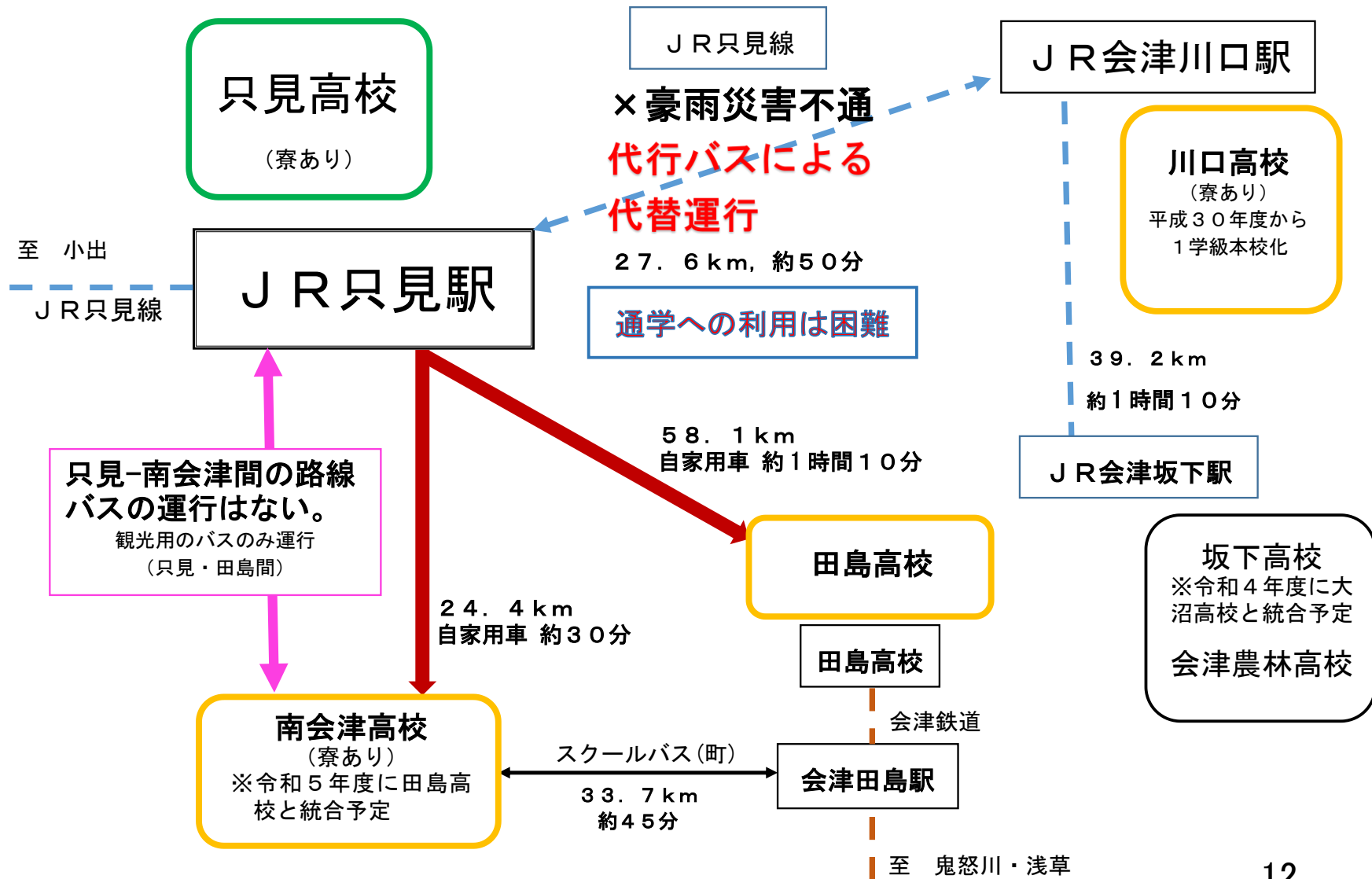
地域協働推進校

定時制・通信制高校

Ⅱ 只見高校の現在の状況

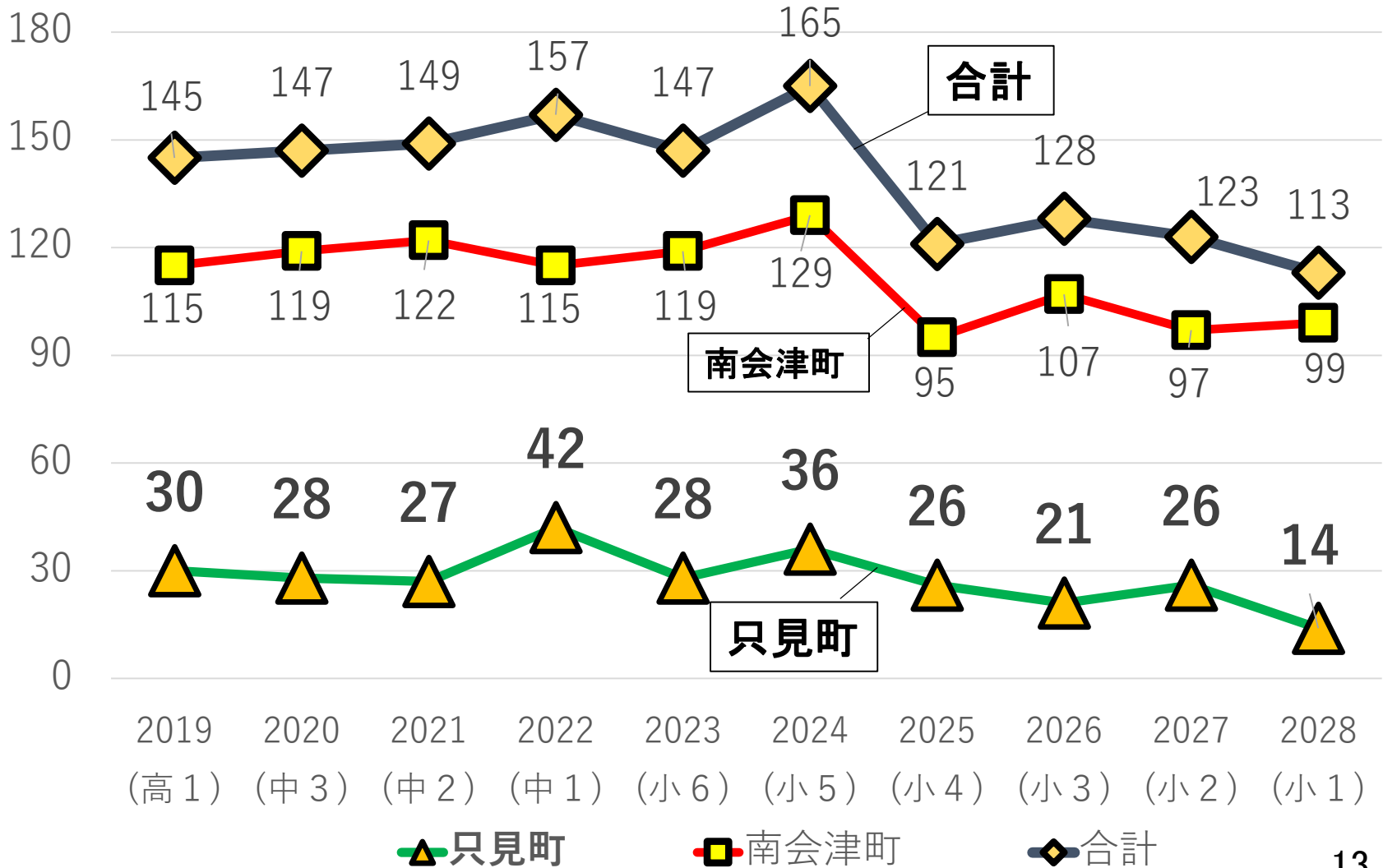
5 地理的条件 — 只見町から近隣への交通手段等 —

[只見町における公的交通機関状況] ……只見線のみ（会津若松方面は只見—会津川口間で豪雨災害により不通のまま）



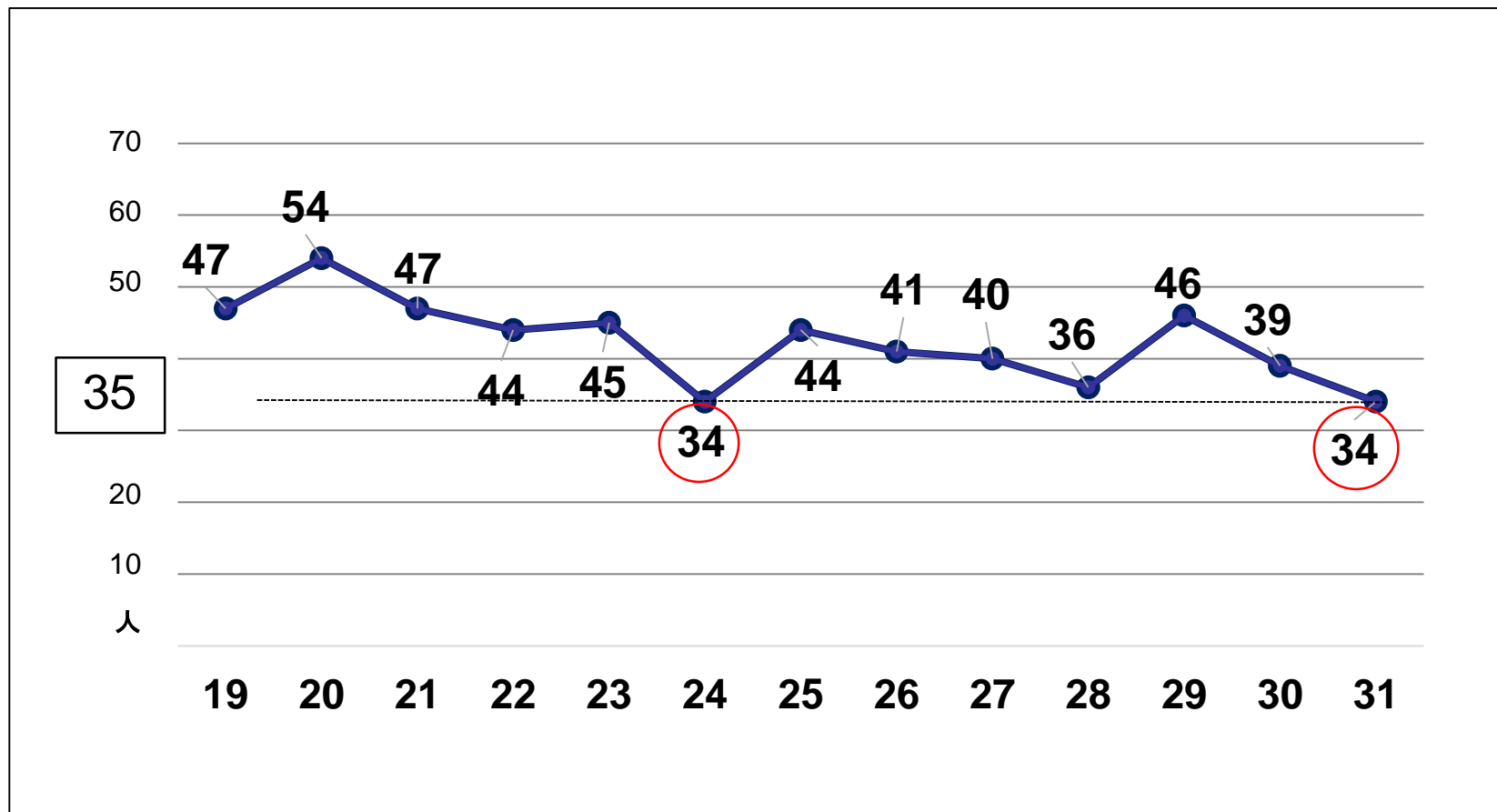
6 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

只見町及び南会津町の中学校卒業見込者数推移



7 只見高校の入学者数の推移

(学校要覧)



○ は定員(70名)の1/2(35名)を下回った年度

8 平成30年度南会津地区中学校卒業者の 高校進学先

(平成29年度卒後の進路調査より)

中学校名	卒業生数	進学者数	只見 高校	南会津 高校	田島 高校	若松市内 県立高校	若松市内 私立高校	会津その 他の公立	県内公立 ／その他	私立 (県内)	県外 (公私)
只見	31	31	27 87.1%	1 3.2%	0	0	0	0	3 9.7%	0	0
田島	76	76	0	11 14.5%	28 36.8%	17 22.4%	13 17.1%	0	0	7 9.2%	0
荒海	15	15	1 6.7%	3 20.0%	3 20.0%	3 20.0%	4 26.7%	0	0	0	1 6.7%
舘岩	16	16	2 12.5%	2 12.5%	1 6.3%	6 37.5%	0	0	3 18.8%	0	2 12.5%
南会津	40	39	0	30 76.9%	0	3 7.7%	1 2.6%	2 5.1%	1 2.6%	1 2.6%	1 2.6%
下郷	43	43	0	1	16	12	11	0	2	1	0
檜枝岐	4	4	0	0	0	3	0	0	0	1	0
計	225	224	30	48	48	44	29	2	9	10	4
進学者に対する 割合(%)			13.4%	21.4%	21.4%	19.6%	12.9%	0.9%	4.0%	4.5%	1.8%
			56.3%								

会津若松市内公立高校（5校）

会津高等学校、葵高等学校、会津学鳳高等学校、若松商業高等学校、会津工業高等学校

会津若松市内私立高校（3校）

会津北嶺高等学校、会津若松ザベリオ学園高等学校、仁愛高等学校

9 只見高校生の主な出身中学校と人数、割合

	中学校名	H 2 8	H 2 9	H 3 0	計
南会津地区	只見中	70	72	75	217
	田島	1	2	1	4
	荒海	1	1	2	4
	舘岩	12	11	8	31
	南会津	1			1
	下郷	3	2		5
他地区	会津地区	6	4	5	15
	会津地区以外の県内	5	5	5	15
	県外	16	23	23	62
全生徒数		115	120	119	354
全生徒数に占める 南会津地区出身者の割合		76.5%	73.3%	72.3%	74.0%
全生徒数に占める 只見中出身者の割合		60.9%	60.0%	63.0%	61.3%
只見中以外からの 進学者数と割合		45 39.1%	48 40.0%	44 37.0%	137 38.7%

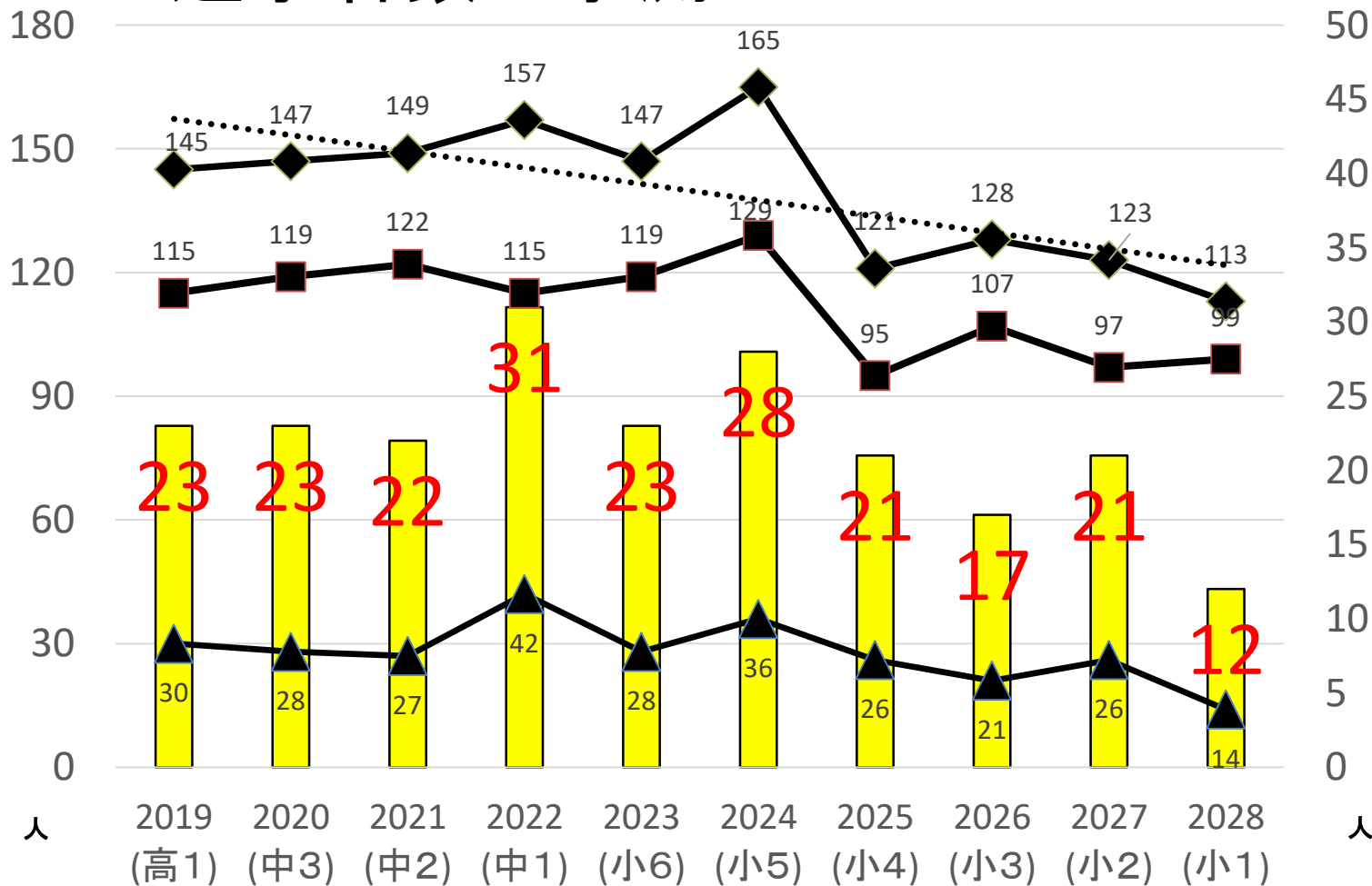
10 只見町からの支援

- 山村教育留学制度
 - ☆帰省費用補助等
- 奥会津学習センター(町営寮)
- 公営塾(心志塾) >
- 県立只見高等学校振興対策支援制度 >
 - ☆通学支援…町内通学バス
 - ☆キャリア教育支援
 - ☆教育活動支援…タブレット購入
 - 海外短期留学制度
 - 模擬試験代の補助
 - 遠征費支援
 - 部活動指導者

など

11 只見町から只見高等学校への 進学者数の予測

(学校基本統計・福島県の推測人口より)



只見高校入学見込者数
 只見町
 南会津町
 合計
 近似直線

3 今後の再編整備について

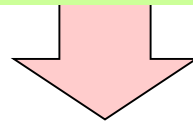
12 只見高等学校の今後について

福島県教育委員会の方針

前期実施計画における

過疎・中山間地域の学習機会確保のための例外的措置

- 「地理的条件や公共交通機関の状況等から統合により近隣の高等学校への通学が極端に困難になる場合」
- 「地元からの入学者の割合が著しく高い場合」



1学級本校化
地域協働推進校

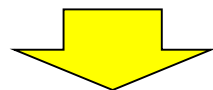
13 1学級本校化のメリットとデメリット

(1) メリット

- 本校として学校が維持される。
- 学校が存続することにより、今まで通り、町内の生徒が只見高校へ通学することができる。
- これまでの学校の伝統を生かしながら、地域を支える人材の育成が可能となり、町の発展に繋がる。
- 引き続き校長が常駐することになり、リーダーシップによる安定した学校運営が可能となる。
- 養護教諭、事務職員の配置が引き続き可能となる。

(2) デメリット

- クラス替えができず、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- 学校規模が小さくなるため、部活動の種類がこれまで以上に限定される。
- 習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。



デメリットの克服に向けて

福島県教育委員会

特色化に応じた支援
を検討(教職員の配
置、学校運営の支援等)

只見高校

魅力あるカリキュラムの検討

只見町

支援の継続

14 只見高校の方向性

1 学級本校化後の只見高校のイメージ図

地域協働推進校

地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、**生徒の進路希望に対応したキャリア教育**の実践による、**地域創生の核**となる人材の育成を図る高等学校

- 地域との協働による学習活動の充実

豊かな自然と文化に恵まれた地域の学びを通して、発見した課題を主体的に解決する教育の展開による、未来を創造できる、生きる力を育成する。

- 地域社会を支える人づくりの推進

県内外からの生徒受け入れによる交流活動を通じた、社会性、人間性の育成及び地域創生の一翼を担う人材を育成する。

- コミュニティ・スクールの導入

地域の声を学校運営に反映させ、地域との協働による教育活動の一層の推進を図る。

15 只見高校の特色化

1 学級本校化に向けて検討する特色化の例

丁寧な学習指導
キャリア教育

地域の豊かな自然や
文化を生かした
体験的な教育活動

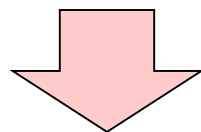
只見ならではの地域資源を活用
(自然・歴史・文化・観光・地場産業…)

学校行事等における
近隣学校との交流や連携

探究型・課題解決型
学習の充実

16 1学級本校化にあたって...

- 学校のさらなる魅力化が必要
- 学校と地域とのさらなる連携が必要



只見高等学校が、より魅力ある学校となるように地域の皆様と協議をしてみたいと思います。

17 今後の改革懇談会の進め方(案)

5/21

第1回 改革懇談会(本日)

- ・1学級本校化についての説明
- ・御意見の聴取(1学級本校化について/学校の魅力化について)

7月以降

第2回 改革懇談会(予定)

- ・第1回懇談会の意見に対する回答
 - ・御意見の聴取、課題の確認
 - ・その他検討事項の確認(教育課程/校内組織/部活動)
- (以降必要に応じて開催)
- ・学校の魅力化についての検討

10月

募集定員を公表

校内の教育課程委員会等により教育内容の検討
(県教委との連携)